

今月の十人+1



四月号

犬飼犬太

佐藤橙

夜月雨

全美

彩結ゆあ

森屋たもん

武井窓花

ただのたなか

きんかく

深山睦美

発行人 吉田岬

二〇三五年四月十日 発行

藍色の仏間 遺影に手を合わせ毎夜感謝を述べる祖父の背

「止まれってなんで赤なの?」「警告さ。死に近づけば赤は出てくる」

ランドセル置いて向かった 行かないと約束してた森の探検

一面の彼岸の花に魅入られて五時のチャイムで正気に戻る

イタドリやスキを踏んで作る基地 秘密の魔力恍惚として

帰り道腹が裂けてたミケを見て誰か笑った、ぼくのうしろで

赤銅の落ち葉の下に転がった無数の石の顔、顔、顔、顔

走ってる理由も知らない妹の右手で踊る毒の花束

静脈の色した僕の思い出は中身を見れば赤が溢れる

分からぬ知らぬ見ない方がいいばかりの世界なのに今夜も

赤に触れる 犬飼犬太

退屈と空腹はよく似ている ねえねえ、僕はあまいものが好きだよ?

人様の不幸は蜜の味らしく、三文芝居に降らせや honey

負け犬のワルツを見てる 三個目の味のない biscuit を噛む

お砂糖は多ければ多い程良い、愛憎劇にぶち撒ける suger

十個目の white chocolate あーあ 愛なんて妄想だ、踊れよ

食べたつてじうせ足りない毒でも皿でもぜんぶ食べちゃう ほらほら寄越せ!

夢見がちな勧善懲惡笑っちゃう、べちよりと溶ける cotton candy

三十個目の whiskey bonbons はあ 正義は酩酊、さつさと吐けよ

負け犬の遠吠えを聞く 百個目の apple pie を齧つて捨てる

絶望は最っ高の蜜 ほらほらほら! あまあいお菓子をもつと頂戴♡

Bulimia 夜月雨

買った絵を上手く説明できなくてそれでも好きでリビングにある

「ふしき」とか自分ではよくわからない寝癖が趣味でも驚かれない

休日の君の予定が埋まつて埋めて良かつたなつて思うよ

親友と同じ名前のリスナーが私の知らない恋をしている

手紙つていくら書いても許されるけれど出すには要る送り先

君の顔紙幣に刷つて使わずに大金持ちになつて死にたい

晴れの日は寝坊したつて大丈夫洗濯物もなんとか乾く

アパートの鍵につけてるペンギンの方が成長してる気がする

噴水を君と見てる「水だ」しか浮かばないけど帰りたくない

旅する 全美

朝日受け舞う埃ごと他地へと乗り入れていく私と電車

音漏れのヘッドフォンからピアノ曲しばし隣に喫茶ルノアール

あちこちで響くくしゃみの音階は少し高めで春めいている

車窓には田園と背後から覗きに来る知らんおじさんの影

旅先でイオンを見つけてホッとする行くことは決してないけど

鞄には食べようとして結局食べられない浮かれたお菓子たち

早足のように進む電車には昨日の言葉に遅延する私

私にははじまりだけど別な誰かには終わりに近づく駅舎

東京にのこした可愛い猫のこと考えるだけで曇る春空

履き慣れた靴は少しずつ減つて他所の土地の住人ヅラする

春 むしろ止まつていよいこんなにも花が咲く日々ゆつくり生きて

カーテンのサイズに妥協しない春はなうた気づけば校歌を鳴らす
花を買う理由素直になれなくて 前ならえの号令がきらい
ありがたい陽ざしを睨みつけるひときつとよく傘忘れているひと

なにもかも眩しい春に最新の iPhone あまり役に立たない
だめことなんてないよと言ひ聞かす桜は私に手本を魅せる

言い訳と理由はちがう 大切なものはしつこくうるさく愛せ
猫なでる猫も私をなでる午後それでも寂しくなつて 耳かき

口笛はいつまでも音そのままで誰かに届いて救つてあげて

都合よく春を舞うコンビニ袋 会いたいひとに会えるといいね
水たまりを避けずに歩けるようになりやつと花買う私のために

スーパーの中では何でも売つていて99%は買えない

アパートの前が通学路なことに初めて気付く出社しなければ
立ち読みで得た見聞を弟に LINE しようと思つてやめた

労災は下りないらしい残業のあとに勝手に事故つた奴は

カーテンの代わりに買った百均のブルーシートから漏れ出る朝日
四千円した診断書無駄だった額縁に入れて便所に飾る

図書館のコスパの良さを妹に LINE しようと思つてやめた
コストコにいる人たちが節約をしてる設定に強い違和感
質感を確かめて触つてる買えないことだけわかる革ジャン

原チャリのイヤに空氣を入れに行く直してあげられるものは直す

飛ぶ鳥を落としてみてはそのあとにひとりしずしず泣くのでしょうか

花ばかり並べられててばかみたいまるでわたしの死後かのように
要するにここは誰かの樂園でだからしづかに背を向けましよう

モノクロの視界の隅にひかるものがあつてそれは父さんの蝶

外国の女人の歌う歌ほんとうは誰もさみしいのに

空っぽのペットボトルに水を足す何もかも偽物なんでしょうか

退屈な犬の仕方のない午睡流れない雲が空に張りつく

燈し油はもういりませんあなたから私への手紙もいりません
春だって言えばすべてが許されるような気配だまたの冬まで

春がひらいて 彩結ゆあ

春の曇り 武井窓花

散文紙 on ただのたなか

ほぼ無いと言える明太で明太フランスパンを名乗れるのなら

愛されていないと吐きたるきみが買う 160 円の自販機の水

移動より輸送って感じだ、満員の電車で笑う広告の誰か

喫煙所のかつては白の螢光灯それに照らさるジャスマインティーよ
友達を見送るために羽田まで。あくびはしたけど寂しいんよ

ほら見なさい私こんなに綺麗でしょ? みたいな顔の月に照らされ

一日のタスクを上司に報告す「生きる」と書くほどまだひねくれず

標準語で怒られている最中に窓の外では電線に鳩

二回ほどつまづいたりはしたけれどコンビニでケーキを買つたりしたい





愛の挨拶

深山睦美

線路内人立ち入りの影響で立ちに入る人に思いを馳せる

とても大きな車輪がひとつ転がつて全ての人人が平等になる
「今あなた 機械は死ぬと言いました 認めてくれた 機械に命を」

X account	
犬飼犬太	@kenta_inukai
佐藤橙	@satohsatoh2677
夜月雨	@imber_nox
全美	@ZENMIN15
彩結ゆあ	@iromusubi_yua
森屋たもん	@monsontanka
武井窓花	@tanka_madoka
ただのたなか	@Shironopa_ka_
きんかく	@kingaku_tanka_
深山睦美	@57577_77575
吉田岬	@tankaofmisaki



まぶたとじれば きんかく

光量が春を示している朝に雪解け流れ出した目頭
指名手配ボスターの傍をかがやきが光速未満で通過致します
優しいの憂いばかり携えて傷つけられたらつけてもいいよ
包まれていないと寂しくなるどんな座席であつても端から埋まる
であるなら冬の全では鯨幕が滲んだ姿なんじやないかな
ひとしきり開かれている文明の各所に取り残されてる桜
生きることは巡ることだと知りながら僕はあなたを留まらせたい
醒め際に春はぼやけて夢でなら夢でなら手を（アラームの音）
涙脆いわけじやないけど決壊と呼ぶにほかない嗚咽あります
まぶたのある生物だから死ぬことが略式逃避のような春眠

指名手配ボスターの傍をかがやきが光速未満で通過致します
優しいの憂いばかり携えて傷つけられたらつけてもいいよ
包まれていないと寂しくなるどんな座席であつても端から埋まる
であるなら冬の全では鯨幕が滲んだ姿なんじやないかな
ひとしきり開かれている文明の各所に取り残されてる桜
生きることは巡ることだと知りながら僕はあなたを留まらせたい
醒め際に春はぼやけて夢でなら夢でなら手を（アラームの音）
涙脆いわけじやないけど決壊と呼ぶにほかない嗚咽あります
まぶたのある生物だから死ぬことが略式逃避のような春眠

五 追憶 吉田岬

海という名前の人を知つてから海を詠むたびあなたが浮かぶ
人間の価値観だつたら泡になることは不幸にあたると知つた
魂の器でしかない肉体の形をふたりはよろこびあつた
ここは海 海海海海海 じゃあここは？海。あなたがくれた
ピザが好き あなたがピザをうたうときすこしはぐれる耳鳴りが好き
いつか来るガスマスクした日常の前にあなたの自撮りがほしい
ブリキュアにやつと男があらわれて魔法少女になりたかつた僕らは
パーマンは人間じやなくともなれるそういうやさしいなにかがあつた
あらすじも忘れたたこ焼きマントマンのテーマはいまもふいに出てくる
追憶は匂いとわたし、言いました。わたしはネロリ 覚えておいて

海という名前の人を知つてから海を詠むたびあなたが浮かぶ
人間の価値観だつたら泡になることは不幸にあたると知つた
魂の器でしかない肉体の形をふたりはよろこびあつた
ここは海 海海海海海 じゃあここは？海。あなたがくれた
ピザが好き あなたがピザをうたうときすこしはぐれる耳鳴りが好き
いつか来るガスマスクした日常の前にあなたの自撮りがほしい
ブリキュアにやつと男があらわれて魔法少女になりたかつた僕らは
パーマンは人間じやなくともなれるそういうやさしいなにかがあつた
あらすじも忘れたたこ焼きマントマンのテーマはいまもふいに出てくる
追憶は匂いとわたし、言いました。わたしはネロリ 覚えておいて